

# ソリューションビジネスへの業容拡大を目指した活動

会社名 株式会社ヒバラコーポレーション  
 所在地 茨城県東海村村松平原3135-85  
 従業員 40名  
 資本金 3,000万円  
 売上高 - 円  
 業種 工業塗装、IoTシステム設計、  
 生産管理システム設計等

**HIBARA**  
 LINK TO THE WORLD

## 支援を受けるにあたって掲げた事業上の目標

Before

- 「ものづくり」ビジネスで培ったノウハウに、デジタル技術を融合することで得られる付加価値をソリューションとして提供するビジネスへの参入をめざしている。
- 具体的には、塗装技術に関するコンサルティングや、遠隔地塗装工場支援システムの構築等に取り組み始めており、これを拡大していきたい。

## 支援を受けてできるようになったこと

After

- ソリューション提供型のビジネスを広げていくためのビジネスモデルやアクションプランの見直しを行うことができた。
- ソリューションビジネスを拡大していく際に必要となる契約関係の整備を行うことができた。

## 今後の事業展開の展望

Future

- 遠隔地塗装工場支援システムのさらなる開発を進め、ソリューション事業として拡大、サービス提供型のソリューション創出にも注力していく。
- ソリューションビジネスの提供において基盤となる契約・体制構築をさらに強化する。

## 重点支援を受けた事業や商材



当社は長年受託塗装を手掛けてきており、塗装に関する様々なノウハウが蓄積されている。

直近ではサービス提供型のビジネスを強化しているところであり、例えば塗装事業者向けの塗装支援システムの提供に取り組んでいる。具体的には、「①ロボット塗装支援」「②遠隔オペレーション支援」「③塗装プロセス管理支援」「④資材支援」の4つの支援を組み合わせたコンサルティングサービス「遠隔地塗装工場支援システム【HIPAX】」を手掛けている。

【出典】株式会社ヒバラコーポレーションWBEサイト  
<https://kougyoutosou.com/>

## 重点支援を実施するにあたって整理した課題



取り組んだ課題	課題に取り組んだ背景・理由
事業戦略の再整理	「ものづくり」ビジネスから、ノウハウ・デジタル技術の利活用を前提としたソリューション提供型のビジネスへと業容拡大していくにあたり、改めて事業戦略を見直しておく必要がある。
知財戦略の検討	ビジネス拡大を図っていくために、知財面から検討していくことを整理しておく必要がある。
データ管理	データ利活用型ビジネスへの展開に際して、データ管理に関する知識を得ておく必要がある。
契約整備	従来ビジネスとは異なるソリューションビジネスへと転換するにあたり、様々な契約体系を整備しておく必要がある。
営業・販売方法検討	新たなビジネスに即した営業・販売方法を検討しておく必要がある。

## 重点支援を通じて受けた支援と支援を通じてできるようになったこと



支援を受けた事項	支援を通じてできるようになったこと	活用専門家
ビジネスモデル検討	<ul style="list-style-type: none"> <li>ビジネスモデルキャンバス等を活用し、今後進んでいくビジネスの方向性や、アクションプランを整理することができた。</li> </ul>	中小企業診断士 弁理士
知財戦略の検討	<ul style="list-style-type: none"> <li>特許情報分析事業を活用することによって、事業と知財との関係性をこれまで以上に整理することができた。</li> <li>また、データ利活用ビジネスにおいて重要となる著作権に関する知識も蓄積することができた。</li> </ul>	弁理士 著作権専門家 ブランド専門家
契約整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>データ利活用ビジネスに関連する契約として、例えばソフトウェア使用許諾契約や秘密保持契約、代理店契約等の契約書ドラフトをブラッシュアップすることができた。</li> </ul>	弁護士 弁理士

## 支援チーム紹介

リーダー専門家: 弁理士 藤掛 宗則

活用専門家: 中小企業診断士、著作権専門家、弁護士、ブランド専門家

知財総合支援窓口担当者: 茨城県知財総合支援窓口 水村 武司

PO(プログラムオフィサー): 百瀬 隆